



「食農教育」 活動を報告

J Aリーダーら70人

県内のJ A食農リーダーによる食農教育の実践活動報告が、岐阜市宇佐南のJ A会館で行われた。写真。県内の六つのサテライト会場とオンラインで結び、各地域の食農リーダーが子どもたちに農業や食の大切さを伝える食農教育

の魅力を語った。

J A岐阜中央会の主催で行われた。新型コロナウイルスの感染症対策で、活動報告はオンライン配信で実施。県内各地の食農リーダーら約70人が参加した。昨年度は報告会も中止となったため、今回は2年分の活動を振り返った。各会場には、事前に録画された動画が流された。

県内の七つのJ Aの食農リーダーが実践内容を報告。J Aぎふ女性部鶴沼支部の梅田秀子さんは特産の各務原にんじんを使って地元の保育園児らに行った食農教育を振り返り、「収穫体験で園児は土に触れ、甘い、おいしいと笑顔を見せていた。農産物は自分たちで作ってこそ安全、安心につながる」と話していた。

東京農業大の上岡美保教授による「日本型食生活と食農教育のすすめ」と題した講演会もオンラインで行われた。

(小森孝美)